

地域フィールドワーク科目のカリキュラム開発-いたみ育ちあい（共育）プロジェクト

研究代表者 総合政策学部・教授 中條 道雄

2010年度の「地域フィールドワーク（伊丹）」の授業においては、従来行ってきた「商店街活性化」プロジェクトの結果・成果に基づいてこれをさらに広い視点から深化させた「いたみ育ちあい（共育）」プロジェクトとして高大連携活動を行った。本年度は高校においてこのイベントが正式な「学年行事」として実施されることに伴い、教科「情報」を履修している普通科の全クラスに加えて「商業科」の生徒も加えた1年生は全員が参加することとなった。このため全生徒が各自何らかの役割を持ってイベントに参画・貢献することができる仕組みを作ることが必要であった。この仕組みとして新たに「店舗担当」として高校生が各担当の店舗に入って「お手伝い」をすることを採用した。事前にこの試みを十分に店主の皆さんに理解しておいていただくことが出来なかったにもかかわらず、生徒たちは良く頑張ってお店のお手伝いをする事が出来た店舗が多く、総じて店主さんたちの評価は高く参加した生徒にとっては自己達成感を得ることが出来た。

毎年の課題であった学生への科目の広報については、WEBシラバスにおいて科目における活動内容について分かりやすく表現するように改良した。またシラバスにおいて「事前説明会」の日時・場所を明記し説明会に出来るだけ参加するよう呼びかけた。説明会では過年度の履修生にも参加してもらい先輩履修生として授業でどのような学びの成長が得られたか、今後の大学での学びや就職活動などに役立つかなどについて述べてもらった。

広報の面でのもう1つの課題であったプロジェクト活動（特にハロウィーン）への留学生の参加については、本年度も「国際教育・協力センター」の支援を得て9月の留学生へのオリエンテーションの一環として地域フィールドワークへの参加を募った。ここで興味を示してくれた留学生を「説明会」に招くことが出来た。西宮市大学交流センターで開催した説明会には10数名の参加を得て、授業の履修生との交流を通してプロジェクト参加への更なる興味と動機づけをすることが出来た。

<シラバス・授業展開の改善>

- ・本年度新たな試みとして授業の中で「ワールド・カフェ」を実施した。

ワールド・カフェは、人々がカフェにある空間のようなオープンで創造性に富んだ会話

ができる場とプロセスを用意することで、組織やコミュニティの文化や状況の共有や新しい知識の生成を行うファシリテーションプロセスであり、「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの手法である。この手法は 1990 年代から企業や民間団体に活用されてきたが、高大連携の地域FWプロジェクトにおいても効果を挙げられるのではと期待され、NPO等においてこのプログラムの普及・推進を行っている（総合政策学部卒業生で在学中に地域FW伊丹を受講した）ファシリテータの協力を得て、授業で1回先行実施し校内発表（1年生全員）と校外発表において実施し一定の効果を挙げた。

・「成功体験ワークシート」の活用

昨年度に引き続き各クラスの初回の授業で履修生各自にこれまでの学生生活における「成功体験の振り返り」を行って、ワークシートに示されている多数の「成功した理由」項目のどれに該当するか（複数選択）を記入しそれらの項目の分析・検討を行ったが、本年度はこれを授業の最後にも行い最初に行ったものと比較検討することで「自己成長」を確認することが出来た。

<プロジェクト成果報告書（提言書）について>

これまでのプロジェクト成果報告書作成の経験・実績を踏まえて本年度の報告書には下記の内容の追加・改善を行った：

・2章の「授業の取り組み」の中に新たに「授業設計のサンプル案作成の試み」を明示した。この中には「授業の特色と要点項目」「年間計画（各月での活動項目）」及び第1－8、13回目の「学習指導案」が記載されている。各回の指導案には学習活動・生徒の活動・指導上の留意点・教科書との対応・参考書の項目について授業における導入・展開・まとめの各段階での展開が記されている。これはこれまでの報告会の参加者、報告書の読者から「教科情報の授業においてどのような展開・留意がなされているのかについて知りたい」との要望に応えたものである。

・授業の中で示した参考図書・WEBサイトを記載した。本年度の授業の特長としては教員が高校生・大学生にとってこの授業と関連して更に学びを広め・深めることに役立つ図書やWEBサイトを積極的に紹介・推薦したことも挙げられる。図書についてはその内容の簡単な紹介や授業内容との関連性などを授業では述べたが、報告書の読者やこのプロジ

ェクトに関心を持っている保護者始め一般の方々のためにこのプロジェクトのWEBサイトに発信していくことが期待される。

<プロジェクト成果の発表>

- ・内閣府内閣官房地域活性化統合事務局小林次長を迎えての発表会

関西学院大学が行っている「地域フィールドワーク」3科目（伊丹・宝塚・西宮）のそれぞれの责任担当教員と受講生代表が発表を行った。プレゼンの時間が短かったために詳しい説明は出来なかったが、各科目の目的・内容・成果などについて情報交換を行うことが出来た。次長からは非常に有意義な授業・活動であり、今後の地域活性化に向けても期待しているとのコメントをいただいた。

- ・「新たな公」活動団体による意見交換会（国交省）

国土交通省近畿地方整備局が主催した『平成20・21年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業実施団体による意見交換会』においてプレゼンを行い、情報・意見交換を行った。この事業は全国規模で国交省がモデル事業への支援を行ったもので、その中の近畿地区での事業を行った代表者・関係者が集まって多様な地域における取り組みについて相互に学び情報交換することが出来た。

- ・「阪神つながり交流会 2011」での発表

阪神地区にある23大学の学生による「キャンクリ学生実行委員会」が主催する『大学と地域が連携して生まれた事例を多くの方に知ってもらい、さらなる連携の活性化を目指して大学と地域の連携強化・推進のためのイベント発表会』で宝塚大学、武庫川女子大学、園田学園女子大学、大手前大学と共に発表を行った。このイベントでは口頭発表・ポスター発表のほかに大学と地域との連携事例の実演なども含めて幅広い交流が行われた。

- ・校外発表

本年度も3月のプロジェクト成果最終校外発表会を高校／大学・商店街・行政関係者及び一般の方々の参加を得て開催した。授業において初めて試行した「ワールド・カフェ」を発表会のプログラムの1つとして実施した。高校生・大学生、商店街始め一般の方々を交えたグループ編成であったが、異なる立場・視点の参加者による討議は友好的な雰囲気でも盛り上がりその効果が実証された。

<今後の展望と課題>

関西学院大学における「地域フィールドワーク科目」は伊丹・宝塚・西宮共に従来の基本科目を履修した学生が更に学びを深化・発展させる科目を「FWアドバンスト」と命名して提供することとなった。これによって「アドバンスト」科目をどのような理念に基づいてカリキュラムを設定していくかが大きな課題である。またこのアドバンスト科目は原則として基本科目を履修した学生が履修することになっているので基本科目とのカリキュラムの接合性（アーティキュレーション）の研究も重要となる。この科目を本来設計された目的が実現するためには基本科目を履修した学生が更に履修することの利点を感じるようなカリキュラム作成が必要となる。その前提として基本科目を履修する学生の数をある程度確保することが必要であり、引き続き科目の広報が重要となる。（この点では本年度に教務部が作成して新入生全員に配布される予定の「さあはじめよう一学部の垣根を越えた多様な学び」パンフレットの活用が期待される。